

費用対効果 分析結果 (再評価)	B/C 1.3	総費用 192億円 事業費：160億円 維持管理費：32億円	総便益 245億円 走行時間短縮便益：228億円 走行経費減少便益：13億円 交通事故減少便益：3.6億円	基準年 平成25年
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C 1.2	総費用 217億円 事業費：189億円 維持管理費：28億円	総便益 263億円 走行時間短縮便益：240億円 走行経費減少便益：19億円 交通事故減少便益：5.2億円	基準年 令和元年
事業遅延によるコスト増		費用増加額 —	便益減少額 —	
事業遅延の理由 ・特になし				
客観的評価指標に対応する事後評価項目 ① 隣接した日常活動圏中心都市間の連絡状況 ・滝沢市～岩手町間の所要時間 (整備前(H11)：55分→整備後(H27)：49分) ② 日常活動圏中心都市へのアクセス向上の状況 ・盛岡市～岩手町間の所要時間 (整備前(H11)：63分→整備後(H27)：62分) ③ 三次医療施設へのアクセス向上の状況 ・岩手町～岩手医科大学附属病院間の所要時間 (整備前(H11)：51分→整備後(H27)45分) ④現道等における交通量の減少、線形不良区間の解消等による安全性向上の状況 ・対象区間の現道における死傷事故件数 (H14～H15:40件/2年 ⇒ H28～H29:3件/2年) 他9項目に該当				
その他評価すべきと判断した項目 ・特になし				
事業による環境変化	環境影響評価に対応する項目 ・特になし			
	その他評価すべきと判断した項目 ・特になし			
事業評価監視委員会の意見 ・事業の目的に対して効果を発現しており、対応方針(案)のとおり、現時点では今後の事後評価及び改善措置の必要性はないが、社会状況等の変化に応じて完成形の整備を検討することが妥当。				
事業を巡る社会経済情勢等の変化 ○周辺道路の整備状況 ・平成30年3月 東北縦貫自動車道 矢巾スマートIC 開通 ・平成31年4月 東北縦貫自動車道 滝沢中央スマートIC 開通 ・令和元年12月 宮古盛岡横断道路 都南川目道路(田の沢IC～手代森IC) 開通				
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性 ・事業の目的に対する効果を概ね発現しており、現時点では今後の事後評価及び改善措置の必要性はない。 ・ただし、社会状況等に変化に応じて完成形の整備を検討する。				
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性 ・当該事業の整備目的について効果発現を確認できており、事業評価手法の見直しの必要性はない。 ・今後のネットワーク完成にあたり、今回同様ネットワーク全体での効果(特にストック効果)の検証に努める。				
その他特記事項 ・特になし				

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。